

都道府県・指定都市番号	52	都道府県・指定都市名	川崎市	研究課題番号・校種名	1 中学校
				教科名	技術・家庭 (家庭分野)
研究課題	<p>学習指導要領の趣旨を実現するための学習・指導方法及び評価方法の工夫改善に関する実践研究</p> <p>(イ) 家庭分野の内容「B衣食住の生活」の食生活において育成を目指す資質・能力を明確にし、これからの生活を展望して課題を解決する力やよりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を育成するための指導計画及び指導方法と学習評価の研究</p>				
ふりがな 学校名 (生徒数)	かわさきしりつ にしたかつ ちゅうがっこう 川崎市立 西高津 中学校 (890人)				
所在地 (電話番号)	神奈川県川崎市高津区久地1-10-1 (044-822-2487)				
研究内容等掲載ウェブサイト URL	http://www.keins.city.kawasaki.jp/3/ke302801/				
研究のキーワード	地域食材の活用 家庭や地域との連携 他教科等の学習との関連 主体的・対話的で深い学び				
研究結果のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ○ 継続してアンケートを行い、学習前の状況を踏まえ指導計画を見直したり学習後の変容から新たな課題を発見したりするなど、アンケート結果を指導に生かすことができた。 ○ 食生活で育む資質・能力を明確にし、小・中学校5年間を見通した指導計画を作成したことにより、小学校の学習内容の理解が深まり、中学校の指導に生かすことができた。 ○ 他教科等の学習との関連を図り、3年間教科等横断的な授業を行うことで、生徒が食生活を「健康・安全」の視点から捉えこれからの食生活を工夫し創造する能力の育成につながった。 ○ 問題解決的な学習において、生活の営みに係る見方・考え方を働かせながら課題設定をし、ICTを活用しながら情報を共有し、解決策を構想することによって主体的に生徒が課題に取り組み、実践的な態度の育成につながった。 ○ 地域人材を活用し、地域食材の「かわさきそだち」についての理解を深めることで生徒の食生活に対する関心・意欲を高め、自分の生活をよりよくするための実践につながった。 				

1 研究主題等

(1) 研究主題

食生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を育成する指導の工夫

～ 他教科等との連携を図り、地域の強みを生かした教材開発を通して ～

(2) 研究主題設定の理由

本校の生徒は、食生活への関心が高く、大変意欲的に授業に取り組む。しかし、学習したことを家庭生活で実践している生徒は少ない。それは、実生活において有用性を感じていなかったり、自分で食事を整えなくても家族が食生活の管理をしてくれたりしているため、必要性を感じていないのではないかと考える。

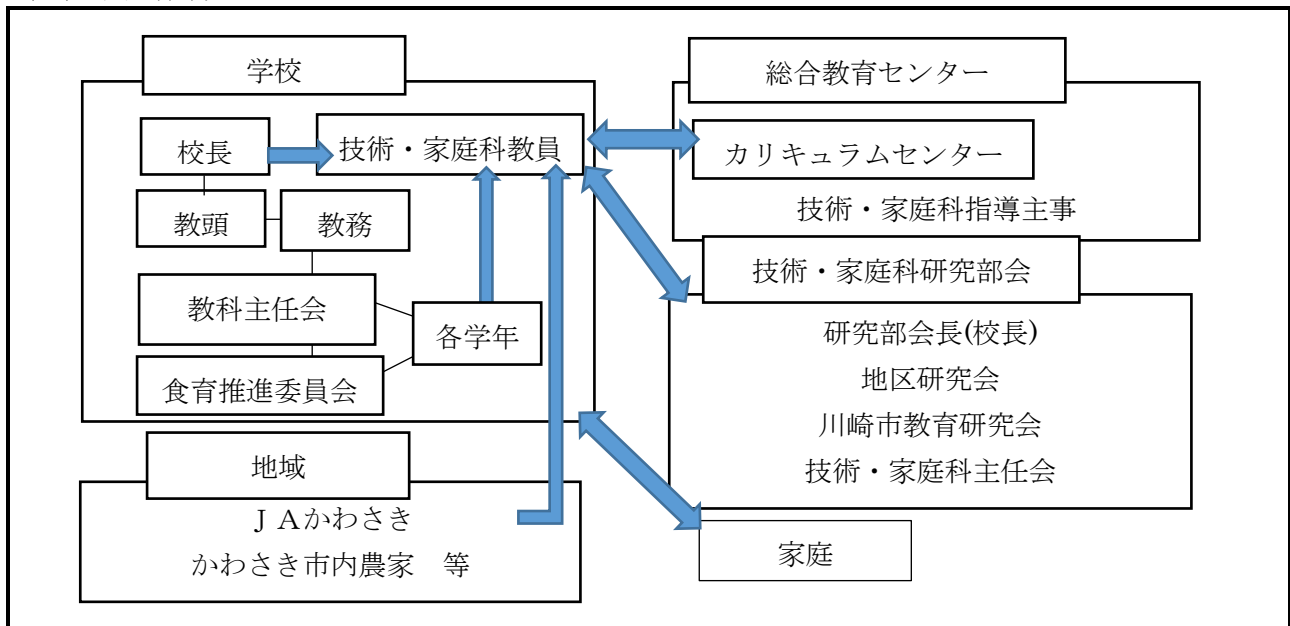
そこで、生徒が実生活において「食生活」を「健康・安全」の視点から考え、必要な知識及び技能を身に付け、これからの生活を展望して「食生活」の課題を解決できる力を養いたいと考えた。

「食生活」への関心をより高めるために、地域で生産されている農産物に着目し、地域や家庭と連携を図りながら学習へ取り組ませたい。具体的には、新学習指導要領の内容「B衣食住の生活」の

食生活 (1)「食事の役割と中学生の栄養の特徴」、(2)「中学生に必要な栄養を満たす食事」、(3)「日常食の調理と地域の食文化」、及び (7)「食生活についての課題と実践」の学習において、小・中学校5年間を見通した指導計画や、他教科等との学習や学校給食との関連を図った指導計画を工夫する。また川崎市では、平成30年度から全市立中学校において給食が開始され、川崎市内で生産された「かわさきそだち」と呼ばれる農作物を使用し、給食を生かした食育の推進も行われている。その地域の強みを生かした教材開発や、家庭や地域との連携について取り組む。

さらに、自分の食生活を見つめ直し、工夫し創造できるようにするために、「生活の営みに関わる見方・考え方」である「健康・安全」の視点で捉え、思考力・判断力・表現力等を育成する指導方法の工夫について取り組む。これらを通して進んで食生活を工夫し創造しようとする生徒を育成したいと考え、本研究主題を設定した。

(3) 研究体制



(4) 2年間の主な取組

令和元年	6月～7月	<ul style="list-style-type: none"> ① 川崎市立中学校2年生を対象に「食生活」に関するアンケートを実施し、その分析を基にした中学校3学年を見通した指導計画の作成 ② 地域の農家等と連携し、地域食材を利用した教材開発 ③ 高津・宮前地区中学校教育研究会・技術・家庭科部会員への授業公開 B(2)イ 第2学年「食から見直す私たちの生活～かわさきそだちを用いた献立を考える」
	8月	<ul style="list-style-type: none"> ①川崎市立生徒のアンケート実施結果の分析 ② 他教科等との学習と関連させた年間指導計画の見直し
	9月～12月	<ul style="list-style-type: none"> ① 「食生活」を工夫し創造しようとする授業公開 B(3)イ 第2学年「食から見直す私たちの生活～かわさきそだちの食材を加えた魚料理の計画」 ② 研究の成果と課題を捉えるための事後アンケートの実施・分析 ③ 高津・宮前地区中学校教育研究会技術・家庭科部会員での指導法の検討 ④ 校内行事「トライやるDAY」での地域や他教科等の学習の連携 ⑤ 小学校と連携した指導計画の検討

	⑥ 研究成果と課題の整理，研究報告書の作成及び研究発表の準備 2月 研究協議会での研究成果と課題の公表 3月 川崎市中学校教育研究会技術・家庭科部会での研究成果の発表
令和2年度	4～10月 ① 小・中の系統性を踏まえた食生活の小・中学校5年間の指導計画の作成及び中学校3年間を見通した全体的な指導計画の再構成 ② 生徒の思考や変容の深まりから見取る学習評価の工夫 ③ 生活の営みに係る見方・考え方を働かせる授業展開についての検討 ④ 外部有識者による学習評価についての研修 ⑤ J Aと連携した地域食材の活用と教材開発 ⑥ 「食生活」を工夫し創造しようとする授業公開 B(3)イ 第2学年「かわさきそだちでおいしく作ろう 実践報告会」 11月～ ① 研究の成果と課題を捉えるための事後アンケートの実施・分析 ② 高津・宮前地区中学校教育研究会技術・家庭科部会員での指導法の検証 ③ 研究成果と課題の整理，研究報告書の作成及び研究発表の準備 2月 研究協議会での研究成果と課題の発信 3月 川崎市中学校教育研究会技術・家庭科部会での研究成果の発表

2 研究内容及び具体的な研究活動

(1) 研究内容

① 生徒の食生活についての実態調査

1) 中学2年生を対象とした実態把握のための既習内容や食に関する関心等のアンケート実施

② 学びの系統性や他教科等（各教科，総合的な学習の時間，特別の教科道徳，特別活動）の学習との関連を図った指導計画，教材開発の工夫

1) 食生活における各題材で育む資質・能力を明確にし，小・中学校5年間を見通した指導計画の作成・工夫

2) 学校給食や他教科等の学習との関連を図った指導計画の作成

3) 「かわさきそだち」の食材を生かした教材開発

③ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習指導の工夫

1) 問題解決的な学習における，生活の営みに係る見方・考え方を働かせる授業展開の工夫

2) 生徒の課題解決や発表場面での効果的なICTの活用

④ 家庭や地域，学校給食と連携した取組の工夫

1) 地域の農家等と連携した教材開発の工夫

2) 家庭や生活の中から問題を見いだして，解決方法を考えるための実践の啓発

(2) 具体的な研究活動

① 生徒の食生活についての実態調査

・令和元年度川崎市内中学校13校2年生（約2500人），令和2年度川崎市内中学校7校2年生（約1900人）を対象として実態把握のためのアンケートを実施し分析を行った。それらの結果から，他教科等の学習との関連を図り，「基礎的・基本的な知識及び技能の習得」に加え，食生活をよりよくしようとする意欲を育成する継続的な研究が必要であると考え，題材計画や授業展開を工夫した。

② 学びの系統性や他教科等（各教科，総合的な学習の時間，特別の教科道徳，特別活動）の学習との関連を図った指導計画，教材開発の工夫

- ・食生活における各題材で育む資質・能力を明確にし，小・中学校5年間の系統性を踏まえた指導計画を作成した。また，中学校3年間の学習活動に即した具体的な指導と評価の計画を作成した。そうすることで，小学校での既習を生かして学びを深めることにつなげた。
- ・他教科等との関連を考え，「家庭分野全体計画」を作成した。家庭分野の学習だけでなく，他教科等でも食生活を意識した学習に取り組むことにつなげた。
- ・地域食材「かわさきそだち」のパンフレットや地域人材の講話等から地域食材への理解を深め，「かわさきそだち」を生かした一食分の献立作成，調理実習の工夫を行った。そうすることで，「健康・安全」の視点から食生活を見直し，家庭でも改善しようとする態度の育成を目指した。

③ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習指導の工夫

- ・「かわさきそだち」の食材を活用した献立作りの計画を通して，「健康・安全」の視点から課題を捉え，課題解決に取り組めた。課題解決に向けた実践活動において，毎時間何を学び，それを次へどのようにつなげたいかを振り返りシートに記入することで，思考の流れを可視化した。
- ・一食分の献立作成時に，ICTを活用し，料理の組み合わせを考えたり，考えたことを視覚的に分かりやすく表現したりする工夫をし，学びが深まるようにした。

④ 家庭や地域と連携した取組の工夫

- ・「かわさきそだち」の献立づくりに取り組むことで，地域食材を用いる意義について理解を深めた。家庭と連携し，継続的に実践していくために，「生活の課題と実践」を第2学年の長期休業中に位置付け，習得した知識及び技能を実生活の中で活用する実践的な態度の育成を目指した。
- ・学習したことを生かし，地域の直売所等で「かわさきそだち」を選択・購入し，自分の生活をよりよくするための実践につなげる活動を行った。

3 研究の成果と課題（○成果●課題）

- アンケートから食生活における課題を把握し，指導に生かした。生徒の食生活への関心が高まり，生活を工夫し創造しようとする態度の育成につながった。
- 小・中学校5年間を見通した指導計画に基づき，中学校における食生活で育む資質・能力を明確にしたことで，小学校の学習内容の理解が深まり，指導に生かすことができた。
- 他教科等の学習との関連を図り，中学校3年間で継続的に教科等横断的な授業を行うことで，生徒が食生活を「健康・安全」の視点から捉え，これからの食生活を工夫し創造する能力の育成につながった。
- 問題解決的な学習において，ICTを活用しながら情報を共有し，解決策を構想することで学びが深まった。
- 地域人材を活用し，地域食材の「かわさきそだち」についての理解を深めることで生徒の食生活に対する関心・意欲を高め，実生活との結びつきを考えさせることができた。

4 今後の取組

研究成果を学校全体や川崎市に発信し他教科等や他校で活用するよう促すとともに，課題を解決する力や実践的な態度を育むための指導方法について，継続して校内や市内での研究に取り組む。